

「T.C.P (大雪コミュニケーションプログラム)」

★事業の概要★

事業のねらい

教員及び青少年教育指導者を対象に、生きていく上で欠かすことのできない「コミュニケーションづくり」をテーマに、望ましい人間関係のつくり方や、個人・グループの成長を促す体験活動について学ぶ機会を提供し、参加者の資質向上を図るとともに、体験的な手法への理解を深める。さらに、身につけた手法をそれぞれの現場で提供できるよう意欲を高め、実践できるようにする。

期 日

平成23年11月19日(土)～11月20日(日)

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

青少年教育関係者 学校教育関係者 青少年教育の指導者を志す者

参加者数：参加募集人員

26名(参加者内訳：教育関係者8人、一般2人、大学生16人)：20名

講 師

国立大雪青少年交流の家職員

日 程

		9:00	11:00	12:00	13:00		17:00	17:20	18:30	21:30
11/19 (土)	受付	開講式	出会うの時間	昼食	体験活動の実際	つどい	夕食	『実際』を生かすプログラムづくり	入浴	休憩
	7:15	7:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00			
11/20 (日)	つどい	朝食	プログラムの実践	昼食	ふりかえりと現場で生かすために	閉講式	解散			

★プログラム紹介★



出会うの時間

参加者は、グループで助け合いながら挑戦、クリアするアドベンチャー教育のゲームを楽しみ、緊張をほくしていった。



体験活動の実際

「ヒューマンチェア」などのゲームを体験してふれあい、協力するうちに、お互いの心の距離が近づく過程を実感した。



体験活動の実際

ゲームをクリアする中で、仲間同士信頼関係を築き、達成感を味わうアドベンチャー教育について理解を深めた。



『実際』を生かすプログラムづくり

これまでの活動で体験したことを思い出しながら、グループごとに話し合い、楽しく人間関係をつくる企画を立案した。



プログラムの実践

各グループ工夫を凝らした企画を発表することでお互いの考えを知り、ますます人間関係づくりの理解を深めた。



ふりかえりと現場で生かすために

研修をふりかえり、学んだ内容を整理するとともに、身につけた知識・技術を現場で生かすにはどうするか、意見交換した。

企画・運営のポイント

- ① 研修会全体を通して、指導者に必要なコミュニケーションづくりの実践力が向上できるよう、講師・運営者として関わる交流の家職員が研修会全体の講習内容を把握し、各講習がつながり、一連の流れになるようプログラムを組んだ。
- ② プログラムについては、子どもへの豊かな指導経験がある社会人から、まだ経験が少ない学生まで、参加者の力量の差に合わせて、高度な内容だけではなく子どもへの声のかけ方や話し方など基礎的なことについても多く盛り込んだ。
- ③ 実習の時間をできるだけ確保したり、具体的な事例や活動をより多く紹介することで、指導者として実際の現場ですぐに実践できる内容にした。
- ④ 実習での体験を生かし、それぞれの現場で実践できるプログラムを企画し、それを発表、意見交換する場を設定することで、学びの定着を図った。

事業を終えて(成果・課題)

- ① 基礎的な内容から高度な内容まで偏り無くプログラムを組んだことで、多くの参加者が満足できる研修会にすることができた。
- ② グループで行う活動をできるだけ設定したり、参加者が情報交流する機会を設けたことで、参加者同士の関係が深められ、ネットワークの構築をすることができた。

今後の方向性

指導者として力量を更に高めていくために、T.C.Pのプログラムをより効果的になるよう整理し、今回の参加者が次のステップへ学びを深める機会を提供できるようにする。